

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

造血悪性腫瘍治療における長期入院はサルコペニア・栄養状態と関連するか

2. 研究の対象患者

当院血液内科にて入院し、造血悪性腫瘍に対して寛解導入療法および造血幹細胞移植を受けた患者さんで、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者さん

・選択基準

- 1) 理学療法の処方がでている患者さん
- 2) 年齢不問
- 3) 性別不問

・除外基準

- 1) 観察項目のデータが不十分な患者さん
- 2) その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不相当と判断した患者さん

3. 研究の対象期間

2016年4月1日～2019年12月31日

4. 研究の概要

白血病や悪性リンパ腫といった造血悪性腫瘍に対する治療は、大量化学療法や骨髄・造血幹細胞移植が選択されることが多い。その中でも寛解導入療法や移植療法は治療期間が数ヶ月単位に及ぶことも珍しくなく、さらに骨髄抑制により無菌室での入院を余儀なくされる。そのため造血悪性腫瘍の治療を目的に入院した患者は退院時に体力・筋力を落としていることは臨床で珍しくなく、それがADL・QOLの低下につながることもある。

サルコペニアとは「加齢に伴う骨格筋量の減少と筋力低下を兼ね備えた状態」と言われており、その診断基準は2010年にEuropean Working Group on Sarcopenia in Older People(EWGSOP)が定義しており、2015年にはAsia Working Group for Sarcopenia(AWGS)がアジア人向けの診断基準を作成している。がん患者では、サルコペニアが有害事象の発現頻度や生存期間に影響を与えるとの報告があり、注目を浴びている。

また、大量化学療法や移植療法による口内炎や食思不振といった有害事象から低栄養状態となる患者さんも多く、それはサルコペニアを進行させる原因となる。

そこで本研究では、当院にて造血悪性腫瘍に対し寛解導入療法および造血幹細胞移植を受け長期入院となった患者さんにおいて、サルコペニアと栄養状態の関連性について診療録をもとに後方視的に解析し、リハビリテーションおよび栄養療法の効果と課題について検討する。

5. 研究実施予定期間

2019年7月17日～2019年12月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕生年月日、年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、最終観察日・観察項目、入退院日、手術名・手術日、診断名、リハビリ履歴

〔血液検査〕WBC、Alb、プレアルブミン

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書

及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： リハビリテーション科 内村 信一郎

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)